

魔法の medicine プロジェクト 活動報告書

報告者氏名:北川 正史

所属:山口県立宇部総合支援学校

記録日:2021年2月1日

キーワード:生活の安定,スケジュール,コミュニケーション,SNS,文字学習

【対象児の情報】

○学年 中学部2年(男) *学校に隣接する施設へ入所中

○障害名 知的障がいを伴う自閉症

○障害と困難の内容と学習や生活に関する基本情報

・療育手帳Aを所持している。(小学3年まではB判定)

・種々のこだわり(一定ではない)があり、その未消化が行動問題へとつながっていく場面がある。

・学校外でのこだわりが強く(買い物や外出場所など)帰省や外出に制約がある。

→帰省することが一番の楽しみであり、保護者もできるだけ休日は帰省させたい思いがある。

・学校でも施設でも、子ども同士の関わりは苦手であり、特定の容姿の女性教員に強い嫌悪感を見せることがある。

→ [怖いと感じているグループ⇒逃げる、隠れる] [騒々しい、面倒と感じているグループ⇒攻撃]

・エコラリア傾向は見られるが、言語によるコミュニケーションでほとんど行動できる。

<学習に関するもの>

・ひらがなは読むことができるが、単語中の一文字から推測した単語を発することがほとんどである。

例) いちご→いくら, おにぎり→にんじゃ(最初の文字に関するものが多いがそれ以外も見られる)

・イラストと文字を合わせて提示すると、イラストから言葉を発することが多い。

→イラスト等に関しては、それに関する内容を話してくることが多く、スケジュール提示には向かないと判断した。

例) パンのイラストを見て「マーシャルビーンズ」や「投げません」など、違う話へと広がることが多い。

・昨年度の学習により教科名などの漢字を読むことができ、学校生活の中で移動や活動の振りかえりの場面でも日常的に使用している。また、読みや意味の理解もひらがなの単語よりもスムーズである。

例) 「体育」の文字を見て、「体育館、野球、走った」などと話すことができる。

*「たいいく」の文字を見ると「たいやき」と言ったり「体育館の写真」を見せると「体育館に行く!」と要求に繋がったりするなど、写真やイラストによる支援が不向きと判断している。

漢字の理解がスムーズなことや上記のような状況から、漢字の学習を進めいきたいと考えている。

・ボードやアプリを使用した、スケジュールの提示も小学部時に行っていたが、上記のように意図しない方向へ話がそれてしまうことも多いのであまり適していないと判断し行っていない。

・「〇〇がおわったら□□」のような次の行動提示からはスムーズな行動が見られる。(魔法 Wallet の参照)

・ひらがなや複雑でない漢字の視写ができる。

→昨年度の学習により『のぶ』と書けるようになった。(あまりに苦勞している所以他の字への取り組みはなし)

→言葉から○や×などの記号を書くことができる。(ひらがなが極めて苦手)

・文字の入力については、音声情報から漢字変換や漢字を見ての入力は比較的スムーズにできる。

→ひらがなの入力やひらがなから漢字への変換は、時間を要することが多い。

・言語による要求ができ、度合いが強いほどいねいな表現になる。

→「スマホを貸してください。」「野菜を減らしてください。」など

<長所として生かしたい行動など>

・活動の振り返りができる。

→がんばったときは自らハイタッチを求めてくる。失敗のときは「バツ」と言ってくる場面などがある。

- ・当日、時間的に不可能な要求などを「明日ね」と約束でき、記憶力も高い。
→翌日、約束はほぼ覚えており、一度使用した物品の収納場所なども覚えている。
- ・文字情報が伝えるための有効な手段と理解していると考えられる。
→母親との SNS 使用の際、教師の指を持って「お家に帰る」や「萩」などの要求を言葉で伝えてきて、文字での入力を要求してくる場面が見られる。
- ・観察力が高く、状況などから判断して行動できる力がある。
→周囲の状況に気を配っており、教師の動きなどから主体的に次の行動に移る場面が頻繁に見られる。

【活動目的】

○当初のねらい

目標① 土日のスケジュールを学校で立て、その意識から学校でできることが学校外でもできるようになる。

- ・特に買い物や遊び方などの学習成果を生かして、帰省や外出したい願いを叶える。

目標② 見通しを持って行動し、校内での活動範囲を広げることができる。

- ・外遊びをしたいことや、他の教室に行きたいなどの願いを叶える。

目標③ 文字情報の理解や表現を身につけることができる。

- ・伝えたい思いや表現したい願いを叶える。

○実施期間 2020年6月～2021年1月

○実施者 北川 正史

○実施者と対象児の関係 学級担任

【活動内容と対象児の変化】

○対象児の事前の状況

<目標①に関する事前の状況について>

学校では、買い物の場所や品物、個数など、事前の約束を守り活動することができるが、学校外では大量買いや場所の急な変更を訴えるなど、外出に関してとても慎重にならざるを得ない状況であり、時間的な余裕があるときに周回な計画を立て帰省や外出をしなければならない状況であった。それに対して、買い物のルールや行動についてのカードを使用したこともあったが、行動に変容は見られなかった。本人も母親との面会への気持ちも強く「お母さん、お母さん」と連呼している場面も多く、施設内では行動問題に発展することもあった。

<目標②に関する事前の状況について>

本児は、屋外や体育館で自転車やボール遊びなど身体を動かす遊びが好きだが、苦手な教員や生徒に出会うことを恐れ、一人では行動しようとしなことが多かった。実際、遊びやその他の活動の最中に言葉をかけられ他害行為や物損なども多々発生してきた。これらから昨年度は、教員も外遊びを推奨せず本人も室内中心の遊びをしていた。

<目標③に関する事前の状況について>

本児は、母親と離れて施設入所しているので日々の様子を伝えるために、昨年度より毎日 ByTalk により、活動の様子や画像や気持ちをスタンプで伝えてきた。しかし、スタンプでは苦手なお風呂に関するものしか選択せず、言葉で「萩に帰りたい」など、本当の思いは言葉で伝えてくる場面が頻繁に見られた。また絵カードのコミュニケーションでも言葉が先行し、適切なカードの選択に至らないことが多く、スタンプが適切な手段とは言えない状況であった。

発言に関しては、要求がある場面では2語文、3語文の発言が見られ、母親との連絡の際は教師の指を持って文字で伝えて欲しいと要求してくる場面も見られるなど、伝える手段として言葉とともに文字情報が有効な手段であると認識していると思われる場面も多く見られた。

○活動の具体的内容と事後の変化

<目標①・②への実践> 『写真付きスケジュールで見通しを持った生活へ』



PhotoMemes を使用して、授業などで出会う生徒、その際の行動、お楽しみ活動などを提示し、毎朝予定の確認を行った。なお、ねらいについては次のとおりである。

目標①については、帰省予定の土曜日に母親の画像やその際の行動や約束を入れておき、平日との連続性を持たせ、学校での行動が学校外でもできると考えたことである。




目標②については、事前に人物やとるべき行動、お楽しみ活動を提示し見通しを持つことともにトークンエコノミー的な意味を持たせ、苦手な者や対人的な嫌悪感を減らしていこうと考えたことである。

PhotoMemes は本来、行動の記録を写真などで残していくアプリであるが、以下のような理由からスケジュール管理ツールとして利用した。

- ①先の日のタイムライン上に写真をのせることが可能である。
- ②写真が表示されるカレンダーが作成できる。
- ③文字情報が添付できる。

これらから、書くことが苦手な写真やイラストの内容などについて、自己の表現がしにくかったことを解消し、自分の選んだ写真やイラストに自分の解釈や内容を追記することで、今まであまり効果的でなかったスケジュールの提示に効果が見られるのではないかと思い本アプリを使用した。

なお、他のスケジュール管理や写真日記アプリも試してみたが、見やすさ、わかりやすさ、使いやすさなどの点で本アプリが優れていると判断した。

◇月の予定一覧◇	◇一日の予定①◇	◇一日の予定②◇
		
土日のスケジュールは、事前に行う。見通しを持つことと行動の手立てとなることを目的とした。	帰省時の行動や約束をスケジュール化した。なお、現在は帰省や面会が不可になっている。	1月からは、クラス表示画像を利用し、表示を見て行動できるようになることを期待している。

☆保護者との連携について

毎日学校のようなすなどを ByTalk for School で連絡しており、可能な限り翌朝返信もきている。

本児は曜日についての理解もあるので、帰省日が決まった際は早めに連絡があり、それをもとに楽しみのあるスケジュール作成ができています。

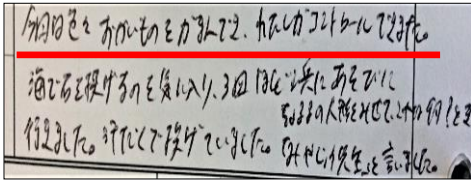
◇事後の変化

<PhotoMemes についての評価>

これまで、スケジュールの提示がスムーズな行動へのつながりが少ないと判断していたが、本アプリの使用により自己の解釈や内容を入力できるようになったため、以下のような行動の変容につながったと考えられる。さらに、文字の読みや入力、そして個人の氏名の把握にもつながった。

<目標①『学校でできることが学校外でもできるようになる。』について>

◇保護者からの連絡より◇



宇部のゆめタウンで、アイス!と何度も訴えたので、いま買うと溶けるよ、萩で買うよ、という、我慢できました。今まではがまんできず、アイスコーナーまでダッシュし、大量に買わされ、萩につくまで車で全部溶けてしまったので、今回はがんばりました。

土曜日を含めたスケジュールの提示を始めて1か月後の帰省時に、行動の変化が見られた。事前に決めた個数や買う場所を意識できた今までにない行動で、お母様も大変喜んでおられた。面会が再開になった10月の久々の帰省時にも買い物をおぼろげに報告があった。しかし、サンプル数も少なく、これが偶然であったのか実践によるものかは不明の部分もある。

[保護者から、連絡帳や SNS より]

*12月下旬より現在も面会や外出不可

<目標②『見通しを持って行動し、校内での活動範囲を広げることができる。』について>

◇苦手な女兒との関係について◇



実践初期のようす



夏休み前のようす

以前は苦手な女兒に接するときは、教師の手を握り隠れるような感じで接していたが、実践1か月が過ぎると自ら接していけるようになってきた。他の苦手な生徒に対しても同様で生徒に対しての嫌悪感は少なくなったと考えられる。その結果として、生徒への他害行為は1件も発生しなかった。*○囲みが対象生徒

◇遊びや行動の変化について◇



昨年度の実践での遊びの内容



遊びのようす



1人で保健室に

昨年度の実践では、要求も室内が中心であり、屋外を勧めても出ようとするとはほとんどなかった。実践開始当初は、教師を誘う場面もあったが、教室環境の変化影響も相まって、一人で屋外に出ることや、保健室や職員室にも行けるなど、校内での活動範囲が広がった。

◇1月からの取り組み◇



行先の写真を選択





写真を見ながら移動

これまでは、人物や部品の写真をスケジュールに入れて行動していたが、活動範囲や目的を広げることや、文字学習の実践として、教室表示プレートを見て行動できるように取り組んだ。その結果、○年□組と美術や音楽など、教科名の表示がある教室に一人でいけるようになった。

<目標③への実践 i> 『写真日記の転写で予測変換や文章構成の基礎を培う』



週2回の国語の時間(火・木)に、毎日行っている写真日記見ながら、アプリ「えにっき」への転写を行った。これにより、予測変換を使用方法的習得を目指したほか、文章の構成についての技能を培うことができることを期待して行った。

◇写真日記について◇	◇学習のようすとえにっきの完成例◇
	
<p>毎日、写真の内容を穴埋め作文形式の作文で日記を作成した。(魔法のWallet 参照)</p>	<p>写真日記の内容をえにっきアプリに転写した。読み上げの支援を行うとスムーズに入力することができる。</p>

<目標③への実践 ii> 『漢字の読みや入力力を養う』



『漢字の読みや入力力を養う』

ひらがなの入力は他の単語を想起してしまうなどのノイズは多いことから、生活に関する漢字の学習を積極的に行った。FingerBoardPro を使用した教材を作成して漢字変換の学習を行った。

◇FingerBoardPro による教材について◇



読み仮名、漢字のどちらかを元に、解答を入力する形にした。当初はイラストや写真を添付していたが、日常生活の中で使用してる言葉は内容を理解していると考えられるので文字のみにした。なお、正解、不正解は自動判定になっている。

◇実践の経過から取り組みと事後の変化

1. 実践の経過からの取り組み

≫実践開始当初のアプリ「えにっき」への転写タイムは以下ようになった。

日付	タイム	学習中の様子
6月02日	30:20	漢字は正しく読み、ひらがな先頭の文字に関する単語を発言する場面が多く見られ(例すいか⇒すいようび) 学習がなかなか進まなかった。さらに、ひらがな一文字を入力するのにとても時間を要していた。漢字はスワイプし候補から素早く入力できるが、ひらがなの単語をスワイプして探す様子は見られず適当に単語を選択するので、一文字ずつ入力させていた。なお、支援者による読みの支援はしていた。
6月09日	22:32	
6月16日	32:02	
6月23日	22:28	
6月30日	16:18	

≫結果より

この結果と文字を探す様子から、本児は50音表を記憶していないと判断し、50音表を記憶することにより、入力がスムーズになるのではと推測し、アプリ『ひらがならべ』による学習を追加した。



『ひらがならべ』での取り組み

- ①文字のマッチング ②うすい文字でマッチング ③音声のみ ④文字音声なしで一部分
- ⑤白紙の状態でも音声もなし このように段階的に取り組んだ。

◇文字の表示あり◇(9月まで)	◇一部表示◇(10月より)	◇ヒントなし◇(12月より)
一文字ずつ探すため開始当初は6分程度を要した。	3列でも開始当初は難しさを見せ音声情報を添付した。	現在は、とてもスムーズに3分から4分で完成させている。最速2:55

2. 事後の変化

≫写真日記のアプリ「えにっき」への転写タイムは以下ようになった。



<タイムについての評価>

50音表の学習を始めてから着実に入力の速度が上がり、最速タイムは2分29秒であった。実践当初は見られなかったひらがなの単語の変換もできるようになってきた。しかし、一文字目の入力がスムーズに行えない場面が見られることもあり、ひらがなへの苦手感は現在も多少はあると考えられる。

≫考察

日記を見て、読みの支援なしで入力できるようになったのが大きな成果である。FingerBoardを使用した教材により漢字の読みの理解も進んでいき、クラスの表示プレートも読むことができるようになった。これらの活動を通して、文章の転写速度が向上しただけでなく、スケジュール表への入力や活動範囲を広げることに効果があったと考えられる。それによって、見通しを持つことや自由に行動できるようになり、落ち着いた生活へとつながったと思われる。

【報告者の気づきとエビデンス】

○主観的気づき

≫文章力を含めて表現力は着実に向上してきているのではないか。

○エビデンス(具体的数値など)

12月以降、写真日記の転写だけでなく、アプリ「えにっき」でゼロから文章を入力することにもチャレンジ



写真の内容について適切な単語は、その後も入力するが、「がんばりました」と「食べた」以外の述語はなし。

時系列を含む文章も見られた。「がんばりました」はなしにしようと言うと何も入力しなかった。

*入力に関して、写真の内容の入力後「それでどうしたん？」の言葉以外の支援や介入は現状では行っていない。

≫考察

上記のように写真の内容について、教科名や学習した語句を使用して表現することはできるようになってきている。さらに文章として表現も見られるようになってきている。しかし、現状決まった述語の表現しかできていない。これについては、写真日記の述語が常に「〇〇をがんばりました。」であった影響と思われる。これらから、写真日記の述語のバリエーションを増やすこと、あるいは『魔法の種 青木高光氏事例』での日記テンプレートの使用が有効でないかと思われる。今後、このような有効な支援によりさらなる表現力の向上が期待できると思われる。

○その他

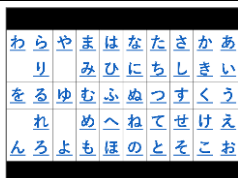
本児の特異なひらがなの読みや書くことの苦手さについて知るための一つの手立てとして、ひらがなの音と文字の一致について確認した。



『PowerPoint』

50音表を作成し、タップすると文字が拡大表示されるようにスライドにリンクを張って、清音の読みの確認教材とした。

◇各文字にリンクを挿入&タップで拡大表示◇



◇結果◇

46文字22文字で対象文字に関する単語を発した。中には「す」の表示で「いす」のように1音目以外のものでもあった。その場で訂正すると正しく読むことができるが、後日確認すると元のように読んでいた。

◇書いてみると◇



◇結果と今後に向けて◇

視写は得意なので表示された文字の視写に取り組むと、上記同様単語を発して書こうとし、手が進まない様子が見られた。しかし、iPadの画面とほぼ同じマグネットお絵かきを使用し、何度かそのまま写すように指示すると、一つの文字を自然に書くことができるようになった。中には音を聞いて書くことができるようになったものもあり、継続することにより更なる発展を期待している。